

筑豊カップ

野村 高広

令和4年7月3日、3年振りに開催された筑豊カップ。私は7年振り6回目の参加であった。参加者は13名（玄海からは6名、嶋田さん、産業医科大学の学生さん6名）。数日続きの晴天、日々報告される熱中症搬送者の数値から、この日も暑さが心配されたが前日は雨。そして当日は回復して曇り。久しぶりの練習会にとって理想的な天候となった。

スタート前、会長の長〜い御挨拶、森さんのグダグダの御説明、緊張感の全くない選手（これらは全て冗談です、笑）、とても懐かしい筑豊カップの風景だ。こじんまりとした練習会であるが、「これが玄海TC」である。

さて、今回(今年)、コースは例年より距離が短く設定されている。例年5キロの第1、第2ランが、それぞれ3.4キロになり、バイクの28キロは19キロに短縮されていた。練習不足、高いWBGT(暑さ指数)を考えれば、私だけでなく多くのレース参加者には都合が良かった(んじゃないかな)。

レースは珍しく予定通り、定刻にスタート。雨でないこと、晴天でないことを喜んでいたが、それでも暑い、厳しい。第1ランは大学生が飛び出したが、数名が徐々に落ちてくる。無理もなからう、こんなに暑ければ。

第1ランは3.4キロしかないので、そうこうしているうちに、バイクへ。スムーズとは言えないトランジションのあとは、ひたすらこぐ。しかし、進まない。これは名高い「筑豊カップ、往きの向かい風」だ！（そんなのは無い）。ということは、折り返しコースの筑豊カップ、帰りは追い風。やはり、そのとおり。復路は気持ちいいように進む！重いギアを力強く踏み込む。なんて素敵な人生なんだろう！と感じているのも束の間、再び往路。向かい風に気が滅入る。まるで私の人生のようだ(知らんけど)。

気持ちよく追い風の復路バイクを終えたら、第2ラン。あと少し。しかし、体力の限界（体力の玄海！と言いたいところだが）。

意識が朦朧とする中、「野村さん、勇気あるリタイヤをしなさい。」という天使の声も聞こえたが、前にも追いつけそうにないし、後ろからも追いつかれそうもない、この中途半端な位置、常套手段の「ペースを落としてやり過ごす」作戦を発動する。

そうこうするうちに、取るに足らない私のレース（なおかつ大袈裟なドラマ）もフィニッシュ！楽しい練習会だった。

そういえば、参加した学生さん(産業医科大学4年生)、先月、はじめて正式な大会51.5のレース(天草国際トライアスロン大会)に出たらしい。大学に入学してトライアスロン部に入部したが、2年3年生の時は大会が全滅、4年生で初めてのデビューになったそう。でもねー、あなたの人生はまだまだこれから。是非、社会人になってからもトライアスロンを続けてください（と最後は真面目にまとめておこう）。

